

第4回

(株)新経営サービス・人事戦略研究所コンサルタント

小林由香

ノートのとらせ方②



前回は、「ノートのとらせ方」について、その考えから具体的な指導ノウハウについて解説してきました。今回は、引き続き「ノートのとらせ方」をテーマにして、さらに発展させていきます。

前回の整理

前回、ノートは最低でも二冊用意させ、「まとめ用」と「演習用」で使い分けるよう指導することが必要と述べました。そして、さらに徹底させるためには、「やり直しノート」をつくらなければならないことにも触れました。

演習用ノート

「演習用ノート」は、練習問題を解くときに使ったり、英単語や漢字練習、数学の計算式を書いたりする際に使います。

要は、せっかく板書をまとめたノートに、途中から単語の羅列や計算式がごちゃごちゃ混ざらないように、ノートの使い分けを指導するということです。生徒が慣れるまでは、教



小林由香(こばやしゆか)

師が、「これはまとめノートに写してね」とか、「この問題を演習用ノートに解いてみよう」などと細かく指示を出し、生徒に習慣づけさせます。

「やり直しノート」で弱点補強をねらう

以上のように、「まとめ用」と「演習用」を使い分けることは最低限必要だと思いますが、そのほかに、「やり直しノート」を作らせることも効果的です。

生徒に指導する際、テストで間違った問題や、授業

元大手市場学習塾校長。新経営サービス入社後は、新入社員から管理者層まで、幅広く教育研修を展開するほか、人事・賃金制度策定業務を専門分野としてコンサルティング活動を行っている。特に、学習塾出身者ならではの視点で、業界にマッチした人事制度、給与の決め方、講師のモチベーションアップ、アルバイト講師の戦力化などのテーマでのコンサルティング実績は豊富であり、全国に多くのクライアントを持つ。

連絡先
(株)新経営サービス・人事戦略研究所
TEL. 075-343-0770
FAX. 075-343-4714
http://jinji.jp
E-mail : kobayashi@skg.co.jp

まとめ

このように、ノートの使い分けから、写し方の指示まで細かく指導を行います。ポイントが、生徒が慣れるまでは「根気よく」、「その都度」指示を出すことです。意図を理解させ、授業中に徹底することによって、やがて生徒が自分で勉強する際にも自然と整理できるようなります。

テスト前の総まとめや、時間のないときには、とりあえずこのノートを開くだけで、自分の弱点を整理することができ、補強につなげるのがねらいです。この場合も、ノートの左側に間違った問題を写し、右側に書き直しをさせたり、場合によっては、左側には、テストの問題を丸々貼り付けさせてもよいでしょう。

授業ルールを徹底・浸透させ、生徒ひとりひとりの習慣づけをサポートするのがプロの教師なのです。

